

中国のビジネス日本語教材における待遇表現の扱われ方

— 教科書の分類と教科書中の「待遇表現」の扱われ方 —

松嶋 緑

【キーワード】 ビジネス日本語教育 中国のビジネス日本語教科書 待遇表現 教科書分析

1. はじめに

本稿は中国で出版されているビジネス日本語教材の研究である¹。中国では改革・開放政策が軌道に乗り、市場経済化が本格的に中国経済を発展させ始めた80年代後半～90年代始めごろから、貿易上の重要なパートナーである日本とのビジネスを意識したビジネス日本語が、日本語教育の分野に登場してきた²。現在、上海や広州など沿海地区ではビジネス日本語講座を開講している大学も多く、また書店にはビジネス日本語教材が数多く並んでいる。そしてそれら教材は、以前に比べ、内容が多種多様化している。そこで、これらビジネス日本語教科書がどのような目的によって編集発行されているか、分類する必要性を感じた。

藤本(1993)、西尾(1995)の記述から、ビジネス日本語教育の目的は、外国である日本と、日本語を使ってビジネスをうまく成立させていくことである。これは単に日本人とのビジネスの方法を学ぶだけでなく、ビジネスを成立させるような話し方ができることを目指している。そのためには、日本人のビジネス・コミュニケーションパターンを含む日本のビジネス文化・慣習を理解することが不可欠だといえよう。これには対人関係が非常に重要であり、待遇表現が密接に関わっている。ビジネス日本語教育の中で、この待遇表現の習得は大変重要な学習項目であるといえよう。しかし、海外で待遇表現を学習する際の困難点は、学習者は実際に日本社会を体験することができないので、教科書に頼らざるを得ないことである。従ってビジネス日本語教科書に待遇表現をどのように配慮して編集・記述しているかということが、その教科書を使用して学習する学習者の、ビジネス日本語の学習到達度に直接影響すると思われる。さらに、台湾・中国・香港では教科書が主要教材であり、学生の教科書・辞書への信頼は非常に厚いという現状がある。教科書への依存度が高ければ高いほど、教科書の待遇表現の扱い方によって、学生の待遇表現習得の程度は大きく影響されると考えられる。

また、中国語母語圏での待遇表現教育についても、佐治(1983)や張(1993)などから、中国の大学機関では、一般に狭義敬語論の域に属するものが多く、待遇表現への教育はあまり重視されていないのが現状のようだ。川口(2002)の、在台湾日本語教育従事者に対して行ったアンケート調査からも(同じ中国語母語圏である台湾人向けの教育という点でも注目には値するが)、在台湾日本語教育従事者が待遇表現教育を行う上での困難点が指摘

されている。そこで教科書で待遇表現がどう扱われているかを見ていくことにした。

2. 研究の目的と方法

筆者は1998年修士課程在学中に、このビジネス日本語に関する調査研究を行った³が、本稿では、その焦点を中国で発行されているビジネス日本語教科書に絞る。ビジネス日本語教科書の待遇表現に関連する記述に引き続き視点をあてることにし、まず、この十年間ぐらいに発行されたビジネス日本語教科書を分類することによって、ビジネス日本語教科書がどのような目的によって編集発行されているかを明らかにする。また、前回の調査から数年を経た現在、さらに多種多様化したビジネス日本語教科書の記述に変化・改善が見られたかを検証し、改めて改善点を提言することを目的とする。

研究の方法としては、まず現在中国で出版されている代表的なビジネス日本語教材を集めた。その中から教科書それぞれの目的・目次・構成から教科書をタイプ別に分類した。その後、分類したビジネス日本語教科書のうち、総合教科書タイプで会話が扱われている教科書を選び、それぞれが待遇表現をどの程度考慮して編集・記述しているかを分析し、問題点があるかどうか検討した。その上で、問題点を指摘、改善すべき点を提言する。

3 中国で発行されているビジネス日本語教科書の分類

3. 1 中国のビジネス日本語教科書について

中国（北京・大連・上海・広州市・深圳市などの大都市）および香港の書店店頭で売られているビジネス日本語教科書は、大きく以下の2種類に大別される。

- ① 中国または台湾で独自に編集・発行された教科書。
- ② 日本で英語による文法・解説がついているビジネス日本語教科書を、中国または台湾で中国語に翻訳した教科書。

この中で、中国の書店で見かけたビジネス日本語教科書は、①の中国で独自に編集発行されたものが多かった。中国の場合、②タイプの教科書は、外国語語学教材を扱う比較的大きな書店、外国語学部・学科がある学校付近の書店で見かけられ、一般の書店に常置されているわけではない⁴。一般的な書店に並べられているのは①タイプの教科書である、という中国の事情も考慮しなくてはならない。

3. 2 調査対象とした教科書

今回の調査で、調査対象とした教科書及び参考書・辞書類を以下に記す。

注：番号・筆者名・書籍名・出版社名の順に記す(原文は中国語簡体字で記されていたが、便宜上日本語の漢字にした)。

- 1) 周林娟編著『白領日語大全（ホワイトカラー日本語大全）』上海科学技術文献出版社刊
- 2) 周林娟編著『商務日語大全（ビジネス日本語大全）』（改訂版）上海科学技術文献出版

社刊

- 3) 計鋼著 (日) 曾野桐子『貿易洽談芸術娯楽会話 (貿易商談芸術娯楽会話)』(第二版) 華中科技大学出版社刊
- 4) 陳樹銘編著 梁衛 責任編集『実用社交日語』世界図書出版公司刊
- 5) 林林 編著『国際貿易日語』武漢大学出版社刊
- 6) 朱偉国編著『日語応用文大全』同済大学出版社刊
- 7) 張新華・袁広泉編『外貿業務日語』(改訂版) 青島海洋大学出版社刊
- 8) 陶友公編『日語交際口語 (日本語交際会話)』東南大学出版社刊
- 9) 韓小龍編著—白領日語系列 (ホワイトカラー日本語シリーズ)—
『商務日語会話 (ビジネス日本語会話)』上海大学出版社刊
- 10) 方愛郷・習鸞鵬・唐向紅他 1 主編『国際商務日語精読 (国際ビジネス日本語精読)』東北財経大学出版社刊
- 11) 劉淑梅・梁樹新編著『新編実用経貿日語 (実用経済貿易日本語)』山東大学出版社刊
- 12) 徐明准編著『新編交際日本語』金盾出版社刊
- 13) 楊詘人編 『現代交際日語』(辦公室用語編) 世界図書出版公司刊
- 14) 同上 『現代交際日語』(応用文編) 世界図書出版公司刊
- 15) 林徳勝著 時事日語月刊社 編著『上班族天天用日語 (サラリーマンの毎日使う日本語)』(マナーのよい日本語) 南開大学出版社刊
- 16) 陳多友主編『中英日三語対照公関日語 (涉外用日本語)』広東旅游出版社刊
- 17) 上海経済委員会職称改革弁公室 編『現代企業管理実用外語』華東理工大学出版社刊
- 18) 王晋華訳『日語常用商務短語 (常用ビジネス日本語フレーズ)』外文出版社 (三省堂編修所編) 刊
- 19) 宋国治主編 大連外国語学院日語学院組織編著『日語商業信函 (日本語商業書簡)』大連理工大学出版社刊
- 20) 徐宝妹編訳『現代日語交際語』上海外語教育出版社刊
- 21) 範崇寅編著『経貿日語 (経済貿易日本語)』大連理工大学出版社刊
- 22) 習鸞鵬編著『商務談判日語口語 (ビジネス商談日本語会話)』大連理工大学出版社刊
- 23) 梁衛企画 黄金主編 広州広東外貿大学東田工作室制作補助 ポケット日本語叢書シリーズ『簡単貿易日語 (簡明貿易日本語)』

☆日本語で書かれた参考書・辞典類

- 24) 王萍 著 『日本商法教程』上海外語教育出版社刊
- 25) 陳小芬著 『日本経済概論』同上
- 26) 徐宝林著 『経営学概論』 同上
- 27) 董礼彬著 『最新日漢商貿辞典』 北京大学出版社刊
- 28) 張祿賢著 『新世紀日漢経貿辞典』北京出版社刊
- 29) 趙蘊毓副主編 張立由主監修『中日商貿詞匯』華東理工大学出版刊

なお参考までに、1998年調査時に入手したものを以下に記す。

- 30) 張正立主編 桂亜華副編 『実用国際商務日語 (国際ビジネス実用日本語)』河北科学

技術出版社刊

- 31) 曾憲凭主編『日語口訳基礎（日本語通訳基礎）』上海外語教育出版社刊
- 32) 朱慧安編著『外貿日語會話（外國貿易日本語會話）』外語教學與研究出版社刊
- 33) 韓進旺著『經貿日語口語與口訳（經濟貿易日本語會話と通訳）』對外經濟貿易大學出版社刊
- 34) 陳岩著『實用漢日經濟翻訳課程（實用漢日經濟翻訳課程）』北京大學出版社刊
- 35) 李宗惠 黃星座 他3名著『電視商務日語（テレビビジネス日語）』清華大學出版社刊
- 36) 周林娟 編著『中日對照商務書信大全（中日對照ビジネス文書大全）』新版世界圖書出版公司刊
- 37) 陳岩 主監修 夏春王 張劍主編『商務日語（ビジネス日本語）』東北財經大學出版社刊

上記の中で16)『中英日三語對照公關日語』は、その前書きから、同書が実際は10冊シリーズになっており、同書の他にビジネス関連の本として『中英日三語對照商貿日語』『中英日三語對照社交日語』『中英日三語對照辦公文秘日語』『中英日三語對照契約文書單証日語』『中英日三語對照國際市場營銷日語』『中英日三語對照電信網絡日語』『中日英三語對照國際市場經營管理日語』が出ていることがわかったが、入手できなかった。

また、以前筆者が調べた教科書の一つである30)『實用國際商務日語（國際實用ビジネス日本語）』は、なお北京の書店で販売されていたし、上海外國語大學のビジネス日本語專攻コースでも、テキストとして使用している講座がある⁵⁾。

なお、3.1で、②に属する教科書としては、

38) 上海朝日文化商務訓練センターによる編集翻譯で、『オフィスの日本語』⁶⁾の大陸翻譯版が出ていた。

3.3 教科書の分類

前節の3.2で紹介した教科書（辞典類を除く）を以下のように分類した。

①総合教科書（いわゆる會話・語彙・文法説明・参考文章などがあるもの）

- 21) 『經貿日語（經濟貿易日本語）』
- 30) 『實用國際商務日語（國際實用ビジネス日本語）』
- 32) 『外貿日語會話（外國貿易日本語會話）』
- 35) 『電視商務日語（テレビビジネス日語）』（なお同教科書は、中國中央テレビ局のテレビ講座用テキストであるので、調査対象からは除外した）

②ビジネス（經濟・貿易取引）に関する案内書的な教科書

- 5) 『國際貿易日語』
- 10) 『國際商務日語精讀（國際ビジネス日本語精讀）』
- 24) 『日本商法教程』
- 25) 『日本經濟概論』

- 26) 『経営学概論』
- 37) 『商務日語 (ビジネス日本語)』

③実用性商用文例集的教科書

- 6) 『日語応用文大全』
- 7) 『外貿業務日語』
- 14) 『現代交際日語』(応用文編)
- 19) 『日語商業信函 (日本語商業書簡)』
- 36) 『中日対照商務書信大全 (中日対照商務文書大全)』

④会話中心の、日本人の商習慣理解に重点をおいた教科書 (ビジネスをする際に理解しておかねばならないことを挙げている)

- 3) 『貿易洽談芸術娯楽会話 (貿易商談芸術娯楽会話)』
- 9) 『商務日語会話(ビジネス日本語会話)』
- 13) 『現代交際日語(現代交際日本語)』(辦公室用語編)
- 15) 『上班族天天用日語 (サラリーマンの毎日使う日本語)』(マナーのよい日本語)

⑤通翻訳者養成のためのもの

- 8) 『日語交際口語(日本語交際会話)』

⑥その他

⑥-1 ①ほどではないが部分的に上の1部を組み合わせた内容の教科書(3)と(4)など

- 1) 『白領日語大全(ホワイトカラー日本語大全)』
- 2) 『商務日語大全 (ビジネス日本語大全)』
- 11) 『新編 実用経貿日語 (新編 実用経済貿易日本語)』
- 12) 『新編 交際日本語』
- 20) 『現代日語交際語』
- 22) 『商務談判日語口語 (ビジネス商談日本語会話)』

⑥-2 ^{ひとこと}一言用語集的な内容のもの

- 4) 『実用社交日語 (実用社交用日本語)』
- 18) 『日語常用商務短語 (常用ビジネス日本語フレーズ)』
- 23) 『簡単貿易日語 (簡明貿易用日本語)』

前回の調査との比較では、前回は、圧倒的に①・②・⑤的な内容のものが多いようだったが、今回の分類からは、③・④・⑥タイプのものが増えていると分析できる。

4. 教科書分析

4.1 教科書の分類および分析の際の留意点

本稿では主として蒲谷・川口・坂本(1998)の待遇表現研究の考え方に依拠して教科書の検討・分析を行う。蒲谷・川口・坂本の考え方では、待遇表現とは、「表現主体」が文

化的・社会的諸条件の下で、「人間関係」や「場」、「表現形態」を認識しつつ、適切な「文話」を構成して「表現意図」をかなえる一連の表現行為である（蒲谷・川口・坂本：1998：p.39）。この待遇表現の考え方を考慮して、本稿では教科書分析を行なったが、その際に留意するところがあり、それを以下の4点に絞った。

1. 待遇表現を考えていく上で「表現主体・相手・話題の人物」、それらの人物の「人間関係」・「場（改まり度）」・「状況設定」などの情報は重要である。そこで、対象教科書の冒頭、または各課の冒頭部（本文「会話文」の前）にそれぞれ記述してあるかどうか、記述してある場合は具体的にどのように記述されているかということを調べてみる必要がある。記述が全くない場合は、それ自体が問題だと考えられる。
2. 上記の記述がある場合は、具体的にどの程度あるか、以下の細目に基づいて分析する。
 - 1) 「人間関係」の記述について：表現主体と相手、話題の人物など人間関係に関する記述があるかどうか。人物間の社会的関係・親疎度はどうか。
 - 2) 「場」の改まり度について：具体的に判断可能な「場」が記されているかどうか。その「場」から判断できる改まり度はどのレベルか。蒲谷・川口・坂本諸文献⁷では、一般に、ビジネスの「場」の改まり度レベルを「0」以上と捉えている（蒲谷・川口・坂本：1998：p.17）。
 - 3) 「状況設定」について：人物間の人間関係・文化的背景など、その課の内容に入る際的前提状況などが具体的に記述されているかどうか。
3. 教科書の非会話部分に、各課ごとの学習目標の設定がしてあるかどうか。設定してある場合、その学習目標の意図が明確に記されているかどうか。
4. 会話部分に待遇表現に配慮した記述・説明が見られるかどうか。記述・説明がある場合は、コミュニケーションをしていく上で注意すべき点（日本的企業文化・企業的文化慣習についても含む）などがあるか。

4. 2 分析の項目について

前節で紹介した分析方法および、留意点に基づき、具体的な分析の項目を案出した。以下にその項目を記す。なおそれらの分析項目は、表2の教科書名以下の、各項目に対応する。

<項目>

- 1) 教科書の冒頭部または会話文の前に「待遇表現」を考えていく上で必要な情報が記述してあるか。情報は大きく「人間関係」に関する情報・「場」の設定・「状況設定」に関する情報に分けるが、その他があればこれを記す。各教科書の対象課について、まず情報がある場合は「○」、ない場合は「×」と記す。
- 2) 情報がある場合、具体的にどのようにあらわれているか、「人間関係」なのか、「場」なのか、「状況設定」なのかその具体的な記述を記す。
- 3) 情報がある場合、その情報が教科書で具体的に扱われている課を記す。それぞれの情報に切り口を当てるため、提示した情報すべてがある場合、「記述されている課」は当然重複することになる。
- 4) その他の情報の有無：ある場合を「○」、ない場合を「×」とする。記述がある場合

はその記述されている課を記す。

- 5) 課ごとの学習目標設定の有無：設定があるかないか。ある場合、それが各課で具体的に反映されている解説があるかないか。ある場合を「○」、ない場合を「×」とする。記述がある場合にはその記述されている課を記す。
- 6) 非会話部分の記述・説明に、待遇表現に関する記述・説明（コミュニケーションを円滑にしていって理解しておかなければならない説明も含む）があるか。ある場合を「○」、ない場合を「×」とする。
- 7) 表現練習・練習問題が学習目標に基づいて作成されているか。また待遇表現にも配慮がしてあるか。そもそも表現練習・練習問題があるかどうかのチェックも行う。練習問題がある場合を「○」、ない場合「×」とする。練習問題がある場合にはその記述されている課を記し、待遇表現への配慮があるかないかも（ ）内に「○」「×」で示す。最後に、7)に関連したことを中心にはあるが、その教科書の構成その他特に記すべき事項があった場合、別に「特記事項」欄を設けて記した。

4. 3 調査対象となる教科書の選定

前節で決定した分類項目を考慮した上で、3. 3で分類した教科書から、2. 研究の目的と方法でも簡単に記したが、少なくとも会話があり、かついずれかにビジネスの慣習やビジネス・コミュニケーションに関する解説や説明などが記されている教科書を、調査対象教科書の条件として絞り、以下の13冊とした（各教科書の構成など詳細については、表1を参照のこと）。

①総合教科書

- 21) 『経貿日語（経済貿易日本語）』
- 30) 『実用国際商務日語（国際実用ビジネス日本語）』
- 32) 『外貿日語会話（外国貿易日本語会話）』

④会話中心の、日本人の商習慣理解に重点をおいた教科書

- 3) 『貿易洽談芸術娯楽会話（貿易商談芸術娯楽会話）』
- 9) 『商務日語会話（ビジネス日本語会話）』
- 13) 『現代交際日語』（辦公室用語編）
- 15) 『上班族天天用日語（サラリーマンの毎日使う日本語）』

⑥その他

- ⑥-1 ①ほどではないが部分的に上の1部を組み合わせた内容の教科書
 - 1) 『白領日語大全（ホワイトカラー日本語大全）』
 - 2) 『商務日語大全（ビジネス日本語大全）』
 - 11) 『新編実用経貿日語（新編 実用経済貿易日本語）』
 - 12) 『新編交際日本語』
 - 20) 『現代日語交際語』
 - 22) 『商務談判日語口語（ビジネス商談日本語会話）』

5. 中国で発行されたビジネス教科書における待遇表現の扱い方

5. 1 分析結果

表1. 調査対象教科書について「各教科書の構成」

教科書名	構成 上：構成 下：各課の詳細
経 貿 日 語	「経済」「貿易」「金融」「商法」の4部構成 各課：本文（解説）・注釈／会話・関連表現／閲読・注釈・新出単語
実用国際商務日語	全26課 本文・新出語彙／書類文献／会話・語彙・文法解説／閲読教材6編
外 貿 日 語 会 話	全12課 1～10課はビジネス日本語のトレーニング、11～12課は総まとめトレーニング 小見出し／新出語句／会話／関連用語・補充用語／新語・会話文の参考訳文
貿易商談芸術娯楽会話	全25課 1「貿易会話」15課・2「芸術1会話」6課・3「娯楽会話」4課 1のみ対訳形式の「会話」・関連表現（語彙の注釈付）2以下は対訳形式の会話のみ
商 務 日 語 会 話	20章85項目敬語・あいさつなどのトピックが課を構成（イラストや図説付でわかりやすい） 各トピックに関する説明／基本用語・常用文例／モデル会話（複数だが短い）
現代交際日語 （オフィス用語編）	20セクション60課（就職・面接・接待・仕事・休暇申請・電話などのトピックで各課を構成） 会話／機能的表現／文法解釈
上班族天天用日語	「敬語と日本語知識」「サラリーマン族の基本的なエチケット」「接待時のエチケット」 「顧客訪問時のエチケット」「電話対応のエチケット」「招待&宴会でのエチケット」 「おつきあいのエチケット」で各課を構成 課の説明／文法・モデル会話（各2つ）／応用表現／ ドアの開閉時のマナーや接待時の席次などビジネスに必要な知識の解説
白 領 日 語 大 全	全22課（出迎えなどの場面・トピックによる課構成）以前からあるタイプ 会話／新出語訳／参考文にあいさつの仕方など対応する上でのマナーや、手紙の書き方、 保険・地震の際の対応のしかたなどまで解説されている／トピックごとの常用表現例
商 務 日 語 大 全	全42課：1「出入国」（6課）2「生活」（9課）3金融（8課）4「投資開発」（9課）5「貿易」（8課） 6「貿易文書」（2課+文15例）の6編で構成 6以外は会話／新出語訳／参考文書／実用例文／常用表現、6は書式の説明や書きかた
新編交際日本語	基礎編・生活編・実用編の3部構成 「基礎」編は文型・新出語・文法・練習、「生活」及び「実用」編は会話・語彙注釈・文法解 練習、「実用」編
新編実用経貿日語	全49課、1部「貿易コレスポンス」（29課）2部「貿易商談」（20課） 1部：1課は「貿易実務の粗筋」（図説と解説・語訳）2課以下は各課の通訳例（複数）・語句・ 練習／読み物 2部：会話・新出語／練習／貿易の基本知識（日本語文による説明）
現代日語交際語	第一部：「語彙の運用」第二部：「文書の制作編集」の二部構成 第一部は各課のトピックの中国語による説明・小知識・練習問題・解答と説明、第二部 は文書作成についての基本知識（社内・社外用文・交用文書他）と練習・解答と説明
商務談判日語口語	全20課「常識編」（10課）「実践編」（10課）で構成。巻末に中国語訳 「常識編」は、紹介・名刺・訪問と接待などのトピックが各課、「実践編」は引き合い〜クレーム までが各課、2編とも、教師と学生の会話形式で各課の説明をしてから「モデル商談」で会話 （各課2つ）／関連読み物「能力の開拓発展」・語訳／総合練習／応用練習／知識百科／語彙集

※内容に工夫がみられるもの：『商務日語会話』『現代日語交際語』『上班族天天用日語』『商務談判日語口語』

表2. ビジネス日本語教科書への調査：「待遇表現を配慮した記述の有無」結果一覧表

項目	1	2	3	4	5	6	7	特記事項
教科書名	会話部冒頭に待遇表現を考慮した情報の有無	左で○の場合具体的に取られている箇所	情報の有無記載の課	その他の情報の有無	課毎の学習目標の設定の有無	非会話部分記述の有無(配慮の有無)	表現練習の有無と学習目標との関連性(練習の有無)	
経貿日語	× (そのものがなし)		×	×	× (設定もなし)	× (記述もなし)	× (練習問題なし)	7.学習目標との関連性は一部あり
実用国際商務日語	×		×	×	× (以下同)	× (以下同)	× (以下同)	
外貿日語会話	×		×	×	×	× (以下同)	× (以下同)	
貿易商談芸術検定会話	×		×	×	×	× (以下同)	× (以下同)	語いの中に関連表現一部あり
商務日語会話	× (冒頭に解説はあり)		△ (状況場面の区別はあり)	△ (冒頭に説明あり)	×	△ (文法説明中に一部有)	× (練習問題なし)	注釈にも説明がある
現代交際日語	×		×	×	×	× (記述もなし)	× (練習問題なし)	
上班族天用日語	×		△ (一般的なマナーについて)	×	×	× (以下同)	× (練習問題なし)	構成は状況・場面シラバスになっている
白領日語大全	×		×	×	×	×	× (練習問題なし)	会話と語彙のみの構成
商務日語大全	×		×	×	×	×	× (練習問題はあり)	同上
新編交際日語	×		×	×	×	△ (語彙用法説明に一部説明有)	× (練習問題はあり)	「練習」に一部関連した設問あり
新編実用経貿日語	×		×	×	×	× (記述もなし)	× (練習問題はあり)	「練習」に一部配慮した設問あり
現代日語交際語	×		×	×	×	○ (解説中に一部有)	× (練習問題はあり)	「練習問題」には一部有
商務談判日語口語	×		×	×	×	△ (「知識百科」で一部解説)	× (練習問題はあり)	

分析した結果の詳細は、最後部に添付した表2を参照されたい。まず、チェック番号1)「教科書の冒頭部または会話文の前に「待遇表現」を考えていく上で必要な情報が記述してある」教科書は、1冊もなかった。また番号4)「その他の情報の記載」、および番号5)「課ごとの学習目標が設定されている」教科書も全くなかった。一方、番号6)「非会話部分の記述・説明に、待遇表現に関する記述・説明(コミュニケーションを円滑にしていく上で理解しておかなければならない説明も含む)」の有無については、全13冊中、『現代日語交際語』1冊だけ解説の中に関連があると判断でき、限られた1部の記述に関連があると判断できたのは、『商務日語会話(ビジネス日本語会話)』『新編交際日語』『商務談判日語口語(ビジネス商談日本語会話)』の3冊だった。また番号7)「表現練習と学習目標との関連性(練習問題の有無)」では、番号5)で述べたとおり、全冊学習目標そのものがなかったので、表現練習・練習問題が学習目標に基づいて作成されているか、また関連性があるかに該当する教科書は、同じく1冊もなかった。ただし、「表現練習・練習問題」がある教科書は全13冊中5冊あり、かつその1部に待遇表現や日本人とビジネスをしていく上での文化を意識した設問が見られた教科書は全13冊中、『現代日語交際語』『新編交際日語』『商務談判日語口語(ビジネス商談日本語会話)』の3冊だった。

5. 2 考察

チェック番号1)、および4)と5)は今回調査した教科書にも、全く記載がなかった。ただし『商務談判日語口語(ビジネス商談日本語会話)』は、「商談のシュミレーション(模擬商談)」で、“王さんが課長に連れられて、取引方の社長に会ってあいさつをする”のように、会話の状況設定が一部入っていた。特に「人間関係」「場」「状況設定」がないままの教科書では、待遇表現を意識したコミュニケーション練習は不可能であろうと思う。

次に、チェック番号3)「情報記載の有無」では、『商務日語会話(ビジネス商談日本語会話)』は状況場面の区別はさせていたが、『上班族天天用日語(サラリーマンの毎日使う日本語)』は、なお一般的なマナーについての解説がしてあった。

チェック番号6)では、一部記載を含めても、待遇表現に関連がある記述があった教科書は4冊であったし、またチェック番号7)でも「練習問題・表現練習」がある教科書は5冊で、かつ待遇表現や日本人とビジネスをしていく上での文化・慣習を意識した設問がごく一部でも見られた教科書は4冊と、調査対象総冊数に対する割合は全体の約3分の1にすぎなかった。しかし、これらの記述は前回調査した時点ではほとんど見られなかったもので、評価すべき変化ではある。

では、具体的に練習問題にどのような関連性が見られるかということ、『現代日語交際語』では、各課のトピックを中国語によって説明し、「小知識」でさらに追加できる知識があれば解説してある。その後に「練習問題・解答と解説」が続く。ここでは2例しか挙げられないが、例えば、第3課問題4(p.31)に以下の設問があった。この課では応対する際の表現を学ぶのがテーマのようで、各種あいさつ用語から、前後にあいさつ語とともに用いられるイディオム、さらには相手の身分をどのようにして確かめるか、ていねいな断り方など細かい応対のしかたが、代表的な表現とともに中国語によって説明されている(設問の原文は中国語、問題文は日本語。原文のまま記す)。

設問：要求に従って、正しく答えよ。

例1(1) 見なれない人が部屋の入り口で何かききたそうにしています。こんなとき、どうしたらいいでしょうか。

例2(5) 受付業務をしていたら、「虎野だ」と名乗る人が現れました。この人は、先輩から要注意人物だと聞いています。虎野氏は社長に合わせるように強引に求めています。どうしたらいいでしょうか。

筆者は、解答と解説がついている点にも注目した。解答は、ある程度マニュアル化された決り文句を答えればいように書いてあるが、外国人学習者にとっては、この種のモデル解答がなければ、解答が難しいことを、教科書を執筆した筆者が配慮していると考えられるからだ。『新編交際日語』実用篇にも、大学生の同級生や同僚など具体的に相手がかかるもの(p.284第3課「誘い」I)、電車の中の人にいわなければならない場合、インタビューをしなければならない場合(p.325第7課「会話の技巧」)で、一般的な人に尋ねる場合、といった設問が出ていた。これら設問は、設問全体の中ではまだ少ないが、前回調査した時にはまったくなかったため、新しい傾向であると判断できる。しかし、「本文」や「会話学習」の前に、ビジネス・コミュニケーションを構築し、待遇を判断していくのに必要不可欠な、根本的な情報である「人間関係」「場」「状況設定」を意識した記述がないのは、大きな欠落であろうと考えられる。

6. おわりに

6.1 結論

以上から、部分的には改善が見られてはいるが、待遇表現指導が大切なにもかかわらず、中国で発行されていて、会話形式を備えている教科書には、1部を除いて、いまだに待遇表現をあまり配慮してはいないことが判明した。

6.2 中国のビジネス教科書への提言

出てきた調査の結果にかんがみ、以下に中国のビジネス教科書についての改善点を提言として述べる。

1. ビジネス日本語を指導する際、教科書に専門用語や日本のビジネス事情や、言語としての日本語（敬語・敬語表現）を載せるだけではなく、それに加えてビジネス・コミュニケーションと関連した待遇表現を記述（説明）するようにする。
2. 総合型タイプ、および会話形式の入った教科書には、会話文の前提に待遇表現を理解する上での状況設定を明確にする。登場人物・その人物間の人間関係（社会的関係・課の話に入る前の設定）・場（改まり度）などを分かりやすく提示する。各課でその人物の人間関係を中心とした展開を図式化させる（日本で出版されている教科書にはすでに一部で図式化されている⁸⁾）。
3. 文型・文法の把握練習に、語彙レベル・談話レベルでの、待遇表現に基づく表現練習を組み込む。
4. 各課ごとに待遇表現に関連した学習目標を明示する。新出語・文型・文法はもとより、待遇表現に基づいた説明も組み込む。その上で、その学習目標に沿った表現練習、練習問題を設定する。その場合、ただの暗記に終わらせるだけでなく、学習者が、自発的に敬語を含む場面・人間関係・状況を把握し、その時々課題（目的）遂行のために、どのようなコミュニケーションをしていったらいいかを説明する。
5. 中国語母語圏の人々と日本人の待遇行動の共通点・相違点をより明確にし、共通する面があれば、それは相互に認められるものかどうか再検討する必要がある。また相違点に関しては、特に意識の面での中国文化と日本文化の現れ方の違いを理解し、その上でよりよいビジネス・コミュニケーションをしていかれるような具体的な指導・説明が必要である。その際に、ビジネス・コミュニケーションを円滑にしていく上で理解が必要な文化習慣的な説明を記述する。

7. 今後の課題

紙面その他の制約で、結果を表に圧縮してしまい、考察で触れた具体例が少なかった。そのため今後の課題として、個々の教科書で扱われている具体的な箇所について検討する必要性を感じている。

最後に、今回、ビジネス日本語教科書を調査分析するにあたり、在上海外国語大学文科省派遣研究員杉山明先生に今回の調査研究にご協力、およびご助言をいただいたことに、

深く感謝の意を表したい。

<参考文献>

- 王 敏東(1998)「台湾におけるビジネス日本語関係の教材について」『日本語教育研究』第34号pp.128-141 言語文化研究所附属東京日本語学校
- 蒲谷 宏・坂本 恵 (1991)「待遇表現教育の構想」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』第3号 pp.23-44 早稲田大学日本語教育センター
- 蒲谷 宏・川口義一・坂本 恵 (1994)「待遇表現研究の構想」『早稲田大学日本語教育センター紀要』第6号 pp.1-21 早稲田大学日本語教育センター
- 蒲谷 宏・川口義一・坂本 恵 (1998)『敬語表現』大修館書店
- 川口義一 (2002)「海外における待遇表現教育の門題点」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要15号pp.15-28 早稲田大学日本語教育センター
- 佐治圭三 (1993)「中国人学習者の間違いやすい敬語表現」『日本語学』第2巻 第1号 pp.38-48 明治書院
- 張 乃方・星 正人(1987)『実習ビジネス中国語』白水社
- 張 択秀 (1993)「依頼表現の日中対照研究」『講座日本語教育』第28分冊 pp.157-177 早稲田大学日本語教育センター
- 西尾珪子 (1995)「ビジネス関係者への日本語教育 -現状と展望-」『日本語教育』第86臨時増刊号 pp.108-118 日本語教育学会誌
- 藤本 明 (1993)「Stanford Univ. 夏季研修講座“Japanese for Business”」『AJALT』第16号 pp.10-15 財)国際日本語普及協会

-
- 1 本稿は中国厦門大学日本語学科創立30周年記念シンポジウムで発表した『中国のビジネス日本語教材について』に加筆修正を加えたものである。
 - 2 台湾では王(1998)がビジネス日本語教材に関する詳細な調査を行っているが、大陸中国では、未だそのような文献はないようだ。
 - 3 筆者は平成11年度麗澤大学大学院博士課程前期修士論文『漢語母語話者を対象としたビジネス日本語教科書の研究-特に待遇表現に関する記述と意識を中心に-』で中国・香港・台湾の高等教育機関46校に対してビジネス日本語教育に関する調査を行なった。
 - 4 一般図書を販売している「新華書店」に対して、②タイプの教科書を販売している書店を「外交書店」という。
 - 5 文化省派遣研究員として現在、上海外国語大学滞在中の杉山先生からの情報による。
 - 6 高見澤孟著91年アルク社刊
 - 7 蒲谷・坂本(1991)、蒲谷・川口・坂本(1994)など。詳細は参考文献を参照のこと。
 - 8 ビジネス日本語フォーラム著『TALKING BUSINESS IN JAPANESE』ジャパンタイムズ社刊